

問題20 期末商品の評価

ランク 標準時間
A 2分

以下の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。

(会計期間：4月1日～3月31日)

＜資料1＞ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表				(単位：円)
繰越商品	700,000	売上		5,000,000
仕入	2,800,000			

＜資料2＞ 決算整理事項

期末商品に関する資料は以下のとおりである。

帳簿数量	実地数量	単価(原価)	単価(売却市場の時価)
100個	90個	5,000円	4,800円

なお、当該商品の見積販売直接経費は1個あたり50円である。

【解答欄】

決算整理後残高試算表				(単位：円)
繰越商品 ()		売上		5,000,000
仕入 ()				
商品評価損 ()				
棚卸減耗損 ()				

解 答 P.117

問題21 まとめ問題

ランク 標準時間
B 7 分

次の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を答えなさい。

(会計期間：Ⅹ2年 4 月 1 日～Ⅹ3年 3 月31日)

＜資料 1＞ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表						(単位：円)		
現		金	552,000	買	掛	金	74,100	
当	座	預	金	2,310,000	売		上	1,810,900
受	取	手	形	36,000	雑	収	入	200
売		掛	金	135,900				
繰	越	商	品	49,500				
仕			入	1,105,500				
雑		損	失	300				

＜資料 2＞ 決算整理事項等

1. 現金に関する事項

- (1) 決算日において現金の実査を行ったところ、金庫の中に下記のものが保管されていた。

通貨及び紙幣	410,000円
他人（A 社）振出小切手	50,000円（振出日：Ⅹ3年 3 月30日）
他人（B 社）振出小切手	30,000円（振出日：Ⅹ3年 4 月 3 日）
送金為替手形	40,000円

- (2) 帳簿残高と実際有高との差異の原因は下記のとおりであった。

- ① B 社振出小切手を受取った際に現金として処理していた。
- ② 買掛金20,000円を他人（C 社）振出小切手で支払ったが、当座預金として処理していた。
- ③ 上記以外は原因不明のため、雑損失または雑収入として処理すること。

2. 売掛金に関する事項

当期末における得意先 Z 社の回答額と当社の得意先元帳残高は以下のとおりであった。

- ・ Z 社の回答額…75,000円
- ・ 得意先元帳残高…75,900円

上記の差異は Z 社に対して8,900円の掛売上を行った際に、9,800円と記帳していたことが原因であった。

3. 期末商品に関する事項

当社は商品の評価方法として総平均法を採用しており、当期における仕入状況等は以下のとおりである。

	期首帳簿数量	当期仕入	期末帳簿数量
数量	150個	3,150個	220個
金額	49,500円	1,105,500円	() 円

なお、期末実地数量は210個であり、帳簿数量との差異は原因不明のため棚卸減耗損として処理すること。また、期末日における売却市場の時価等は以下のとおりである。

	売却市場の時価	見積販売直接経費
金額	@355円	@10円

【解答欄】

決算整理後残高試算表				(単位：円)			
現	金	(	)	買	掛	金	(
当	座	預	金	売		上	(
受	取	手	形	雑	収	入	(
売	掛	金	(				)
繰	越	商	品				(
仕		入	(				)
商	品	評	価				(
棚	卸	減	耗				(
雑	損	失	(				)

解 答 P. 117

問題22 減価償却 1

ランク 標準時間
A 2 分

以下の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。なお、金額計算において円未満の端数は切捨てること。(会計期間：4月1日～3月31日)

＜資料1＞ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表				(単位：円)
建	物	2,000,000	建物減価償却累計額	720,000
備	品	560,000	備品減価償却累計額	323,750

＜資料2＞ 決算整理事項

減価償却に関する資料は以下のとおりである。

	償却方法	耐用年数	償却率
建物	定額法	50年	—
備品	定率法	8年	0.250

建物については、残存価額を取得価額の10%とし、備品については、残存価額を0として減価償却計算を行う。

【解答欄】

決算整理後残高試算表				(単位：円)
建	物	()	建物減価償却累計額	()
備	品	()	備品減価償却累計額	()
減	価	償	却	費 ()

解 答 P.118

(1) 会社仕訳

(売 掛 金)	9,800	(売 上)	9,800
---------	-------	-------	-------

(2) 正しい仕訳

(売 掛 金)	8,900	(売 上)	8,900
---------	-------	-------	-------

3. 商品

(1) 売上原価の算定

(仕 入)	49,500	(繰 越 商 品)	49,500
-------	--------	-----------	--------

(繰 越 商 品)	77,000	(仕 入)	77,000
-----------	--------	-------	--------

※① 平均単価の算定

$$\frac{49,500 + 1,105,500}{150個 + 3,150個} = @350$$

② 期末帳簿棚卸高

$$@350 \times 220個 = 77,000$$

(2) 棚卸減耗損

(棚卸減耗損)	3,500	(繰 越 商 品)	3,500
---------	-------	-----------	-------

$$※ @350 \times (220個 - 210個) = 3,500$$

(3) 商品評価損

(商品評価損)	1,050	(繰 越 商 品)	1,050
---------	-------	-----------	-------

※① 正味売却価額

$$@355 - @10 = @345$$

② 商品評価損

$$(@350 - @345) \times 210個 = 1,050$$

問題22

解答

決算整理後残高試算表 (単位: 円)

建 物 (2,000,000)	建物減価償却 累 計 額 (756,000)
備 品 (560,000)	備品減価償却 累 計 額 (382,812)
減価償却費 (95,062)	

解説

1. 建物の減価償却費

$$2,000,000 \times 0.9 \times \frac{1年}{50年} = 36,000$$

2. 備品の減価償却費

$$\frac{\text{取得価額} - \text{期首備品減果}}{560,000 - 323,750} \times 0.250 = 59,062.5$$

→59,062

問題23

解答

決算整理後残高試算表 (単位: 円)

建 物 (3,732,000)
備 品 (126,562)
減価償却費 (150,188)

解説

1. 建物

$$6,000,000 \times 0.9 \times \frac{1年}{50年} = 108,000$$

2. 備品

$$168,750 \times 0.250 = 42,187.5 \rightarrow 42,188$$

問題24

解答

決算整理後残高試算表 (単位: 円)

建 物 (11,400,000)	減 価 償 却 累 計 額 (2,061,000)
減価償却費 (117,000)	

解説

1. 建物取得時

(建 物)	5,400,000	(建設仮勘定)	2,000,000
		(当 座 預 金)	3,400,000

$$※ 3,300,000 + 100,000 = 3,400,000$$

2. 減価償却

(減価償却費)	117,000	(減 価 償 却 累 計 額)	117,000
---------	---------	--------------------	---------

※(1) 従来分

$$6,000,000 \times 0.9 \times \frac{1年}{50年} = 108,000$$

(2) 3月取得分

$$5,400,000 \times \frac{1年}{50年} \times \frac{1ヶ月}{12ヶ月} = 9,000$$

$$(3) (1) + (2) = 117,000$$

(4) 当期仕入

$$200\text{個} \times @240 = 48,000$$

移動平均単価

$$\frac{22,000 + 43,700 - 43,800 + 48,000}{110\text{個} + 190\text{個} - 200\text{個} + 200\text{個}} = @233$$

(5) 売上原価

$$210\text{個} \times @233 = 48,930$$

(6) 当期仕入

$$90\text{個} \times @251 = 22,590$$

移動平均単価

$$\frac{22,000 + 43,700 - 43,800 + 48,000 - 48,930}{110\text{個} + 190\text{個} - 200\text{個} + 200\text{個}} + \frac{22,590}{-210\text{個} + 90\text{個}} = @242$$

(7) 期末商品帳簿棚卸高

$$180\text{個} \times @242 = 43,560$$

3. 総平均法

$$(1) \frac{110\text{個} \times @200 + 190\text{個} \times @230 + 200\text{個} \times @240}{110\text{個} + 190\text{個}}$$

$$+ \frac{90\text{個} \times 251}{+200\text{個} + 90\text{個}} = @231$$

$$(2) 180\text{個} \times @231 = 41,580$$

問題20

解答

決算整理後残高試算表 (単位: 円)

繰越商品 (427,500)	売上 5,000,000
仕入 (3,000,000)	
商品評価損 (22,500)	
棚卸減耗損 (50,000)	

解説

(仕入) 700,000 (繰越商品) 700,000

(繰越商品) 500,000^{※1} (仕入) 500,000

(棚卸減耗損) 50,000^{※2} (繰越商品) 50,000

(商品評価損) 22,500^{※3} (繰越商品) 22,500

※1 100個 × @5,000 = 500,000

※2 (100個 - 90個) × @5,000 = 50,000

※3 90個 × (@5,000 - @4,750^(注)) = 22,500

(注) @4,800 - @50 = @4,750

問題21

解答

決算整理後残高試算表 (単位: 円)

現金 (500,000)	買掛金 (74,100)
当座預金 (2,330,000)	売上 (1,810,000)
受取手形 (66,000)	雑収入 (200)
売掛金 (135,000)	
繰越商品 (72,450)	
仕入 (1,078,000)	
商品評価損 (1,050)	
棚卸減耗損 (3,500)	
雑損失 (2,300)	

解説

1. 現金

(1) B社振出小切手の修正

(受取手形) 30,000 (現金) 30,000

① 会社仕訳

(現金) 30,000 (× × ×) 30,000

② 正しい仕訳

(受取手形) 30,000 (× × ×) 30,000

(2) 買掛金支払時の修正

(当座預金) 20,000 (現金) 20,000

① 会社仕訳

(買掛金) 20,000 (当座預金) 20,000

② 正しい仕訳

(買掛金) 20,000 (現金) 20,000

(3) 現金過不足

(雑損失) 2,000[※] (現金) 2,000

※① 帳簿残高: 552,000 - 30,000 - 20,000

= 502,000

② 実際有高: 通貨・紙幣 A社小切手 送金為替手形
410,000 + 50,000 + 40,000

= 500,000

③ ① - ② = 2,000

2. 売掛金

(売上) 900 (売掛金) 900